

試用レポート

シーガル4A-105 / 4A-107

種清豊

4B-1の上位機種4A-105・107

上海シーガル社の二眼レフ「Seagull4B-1」の輸入再開が一昨年の秋ごろであったと思う。本誌でも使用レポートされたことは読者の方々の記憶にも新しいだろう。今回およそ1年ぶりに新製品？というより先の「4B-1」の上位機種「Seagull4A-105・107・107G」の輸入・販売がエー・パワーより発表された。手に入りやすい価格帯で新品の二眼レフを求められるということもあってか、とくに若い世代に人気があり、インターネットのサイトでもシーガルのことを取り上げたものが数多くある。今回は3機種のうち「4A-105・107」を紹介しよう。

まず簡単に両カメラの機能を見てみると、「4B-1」と違いフィルム巻き上げがクランク式になったところが一番大きな相違点。日本語取り扱い説明書にはオートマット式と書かれているがローライのようなオートマットではなく、スタートマーク方式のセミオートマットである。

シャッターやレンズ焦点距離はまったく同じで基本的な外観も同じに見える。ホットシューとシンクローターミナルの両方とも装備されている。

つぎに今回の2機種の違いだが、「105」のほうがトリプレットタイプの3群3枚構成、「107」が3群4枚構成のテッサタイプになっていて、ともに開放値はF3.5、ビューレンズはF2.8である。それと「107」にはシャッターロックレバーと裏蓋上部に簡易露出表が付いている。露出表についてはとくに説明書では書かれていないので単なるおまけ程度なのかもしれない。なお、「107G」は「107」の金メッキモデルである。

形式：二眼レフカメラ  
 フィルムサイズ：120フィルム  
 撮影レンズ：4A-105；トリプレットタイプ75mm F3.5（3群3枚構成）  
 4A-107/107G；テッサタイプ75mm F3.5（3群4枚構成）  
 ビューレンズ：75mm F2.8（3群3枚構成）  
 シャッター：B.1～1/300秒、107はロックあり  
 ファインダー：ピントフード、フレネルレンズ付き、透視用ファインダー  
 フィルム給送：オートマット  
 大きさ・重さ：102×102×146mm、990g（105）、1,010g（107）  
 価格：4A-105 ¥31,500。4A-107 ¥35,700。4A-107G ¥37,800  
 発売：2007年12月1日  
 問合せ：エー・パワー (04)2923-5234



しかし実際1番気になるのは、写りはどうだろうということだ。フィルム室に内面反射防止措置がまったくない点、テッサタイプとトリプレットタイプの比較という点も含めて、順光での撮影もちろんだが少し意地悪く、真逆光での撮影、夜景でも点光源のかなり多い被写体を選んで実写してみた。

良好な描写

結果からいうと良好な写りをしてくれたところだろう。抽象的な表現で申し訳ないが、2機種とも、順光はともかく晴天逆光下での撮影で予想していたフレアがほとんど現れなかった点でもそういえる。時間で2時ぐらい、冬の斜光線なので画面全体にフレアが出るだろうと思っていたが、実際には画面最下部、

実画面で1.5mmぐらい真横に内面反射によるカブリがでた程度で実的な画面部分での影響はまったくなかった。絞りの形がはっきりでるゴーストも見限り発生していない。

ボケ具合ではトリプレットタイプがテッサタイプに比べ画面周辺部で少しにじんだように見えた。発色だが、2機種とも少し落ち着いた色の



【4A-105】シャッターロックがなく、レンズ部にトリプレットの「3-G 3-E」表記



【4A-107】シャッターロックがあり、レンズ部にテッサタイプの「3-G 4-E」表記



【午後2時ごろ、代官山八幡通りにて】まっすぐの歩道に逆光で光が差していたので、地面にカメラを置いて少し仰いで撮ってみた。結果はこのとおり。  
シーガル4A-105、トリプレットタイプ、F11・1/300秒、RDP



【少し遠景の銀座松屋デパート】時間でさまざまな色の電飾に変化していた。こういった夜景スナップでも結果は決して悪くはない。  
シーガル4A-107、テッサタイプ、F3.5・1/2秒、RAP F

出方であった。しかし、日中の撮影においては2機種による大幅な写りの違いは認められず、それほど撮影に神経質になるような違いのレンズではないということがわかった。

つぎに夜景での撮影だが、ここでははっきりと2つのレンズによる写り具合の違いが認められた。画面中心近くでの差はほぼわからないが、画面端にいくにしたがってトリプレットタイプでは点光源の部分に彗星のようににじんだ「コマ収差」がはっきりと出た。

小さい豆電球が何百と横につながって発光している部分で、テッサタイプではそれらが1個1個分離して見えるのだが、トリプレットはそれが1本の光の帯のように見えてしまう。レンズの性能という点では確実にテッサタイプが高いということである。

たしかに、違いがないままだとこちらも困るし、販売するほうでも困るだろう。そういう意味でもこのレンズテストはおもしろかった。

まあまあ写るよとか、値段も値段だからねという意見はこういうカメラにはつきものかもしれない。しかし、その値段でもこんなに写るのかという意見は少ない気もする。実際の写りをどこまで期待していいかはわからないし、そこそこの写りをしてくれればいい



【有楽町付近】比較的細かな点光源で構成されたクリスマス向けのイルミネーション。105と107の撮り比べで、この被写体は大きくレンズ性能の差がみてとれた。シーガル4A-107、テッサタイプ、F3.5・1/4秒、RAP F



【シーガル4A-105】トリプレットタイプ、左上を部分拡大



【シーガル4A-107】テッサタイプ、左上を部分拡大

という、そのそこそこもむずかしい。

だが中古でなく新品を求めやすい値段で、ということがある以上それだけでも納得できればいい気もするし、実用というより、楽しんだり遊ぶものと考えての写りだと、より納得できるものだと思う。

最後に1つだけ付け加えたいのだが、この製品の説明書に、国産カメラほどの生産管理がされていないと書いてある。撮影前、撮影後ともに小さなトラブルが起こる可能性があるカメラということを知ったうえで、念入りにテスト撮影や動作確認を行ってから本番撮影を楽しんでほしい。それもこのカメラの愛嬌と考えて使うと楽しめるのではないだろうか。

(たねきよ ゆたか：写真家)